

室内環境、に限らず感染対策、ヒトの健康について

齊藤 智

(株) 竹中工務店 技術研究所

今回、「薫風」への寄稿の機会をいただきありがとうございます。これまでの文章を拝見して、比較的自由に自分の考えを書いてもよさそうな印象ですので、私の場合、自分の研究の紹介というよりも、自分の思い、考えについて、これを機会に述べたいと思います。

これを執筆している2021年5月現在、新型コロナウイルスの感染拡大が世界で起きており、国内ではいくつかの都道府県で3度目の緊急事態宣言が発令される事態となっています。このウイルスの場合、主な感染経路は飛沫感染、接触感染と言われており、一部ではエアロゾル感染（空気感染、飛沫核感染、マイクロ飛沫感染など、研究者やマスコミによってはいろいろな呼び方があります）もあるのではないかとされています。その対策として、ここで書くまでもないですが、マスクの着用、手洗い、手の消毒、換気の励行、といったことが言われています。一時は、季節性インフルエンザの流行と新型コロナウイルスの流行が重なって、市中での感染が大変なことになるのではないかと危惧されていましたが、季節性インフルエンザの感染者数は例年の千分の一かそれ以下、と報道されているようで、危惧されたような騒動にはならなかったと思います。私の当初の予想としては、新型コロナウイルス感染対策のため、マスク着用などがかつてないほど徹底され（現在、都会で電車に乗ってマスクをしていない人はほぼ皆無でしょう）、手洗い、手の消毒も注意して行うようになったので、例年のような季節性インフルエンザの流行はないだろう、とと思っていましたが、やはりその通りであったかと思っています。そう考えると、今までがいかに多くの人同士で知らず知らずのうちに、ウイルスや細菌といった病原体を飛沫由来にしても接触由来にしても、互いにうつし合っていたのではないかと、思います。

今回の新型コロナウイルスの感染がいつ終息するか、まだ見えない状況ですが、終息した後の世の中の状況を想像してみると、一部の人は新型コロナの騒動などなかったように、これまで通りにマスクはしないで、手洗い、手の消毒はしないと思いますが、多くの人はいつ新たな感染症が起きるかわからないとして、感染対策を継続して行うように思います。手洗い、手の消毒などの対策自体、もちろん悪いことだとは思いませんが、この状態が今後継続することになると、逆に日頃から適度に他人から菌をうつしてもらうことがなくなり、病原菌に対する抵抗性が弱くなるのではないかと、と思っています。外出先から帰っての手洗いは必要ですが、感染を恐れるあまり、飲み会や人の集まりの自粛、果ては挨拶としての握手などもなくなってしまうと、適度に菌をうつしてもらうことがなくなるのではないかと、思います。私自身の体験として、かつてつくばに住んで車通勤ばかりしている時に、たまに電車によって都内に出かけると風邪か何かにかかってしまい、つくばに住む以前より病原菌に対する抵抗性が落ちたのではないかと、思いました。

殺菌、抗菌が以前から重要視され、食品業界、医薬品業界では当然、そういったことが必要不可欠ですが、日常生活においては、適度に雑菌にさらされていることがむしろ病原菌に対する抵抗性を維持することになるでしょう。考え方・程度は人それぞれだと思いますが、感染を恐れるあまり、日常生活での余りに徹底した殺菌、抗菌、感染対策はかえって人にとってよくないのではないかと、思う今日この頃です。